

JICA 青年研修プログラム参加者が災害科学国際研究所を訪問されました(2016/7/29)

テーマ：東日本大震災・防災への取組み・被災地の活性化と復興
場所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市青葉区）

2016年7月29日（金）、独立行政法人 国際協力機構（JICA）の青年研修プログラム（テーマ：震災後の防災への取組み-官・民（コミュニティ）・学の事例から学ぶ）に参加しているフィリピンの若手地方行政官 15 名が、「学」の事例の代表として災害科学国際研究所(IRIDeS)を訪問されました。当研究所からは、人間・社会対応研究部門の奥村誠 副所長と川島秀一 教授、井内加奈子 准教授が参加し講義を行いました。

まず、奥村副所長より IRIDeS の成り立ちや実践的防災学について、そして研究活動の概要や今後の方向性、課題などについて説明しました。また、今回の研修の成果を将来、フィリピンで是非役立ててほしいと述べました。続いて、川島教授による「日本の災害文化」と題した講義が行われ、日本に存在する災害・防災に関係する様々な儀礼・行事について多くの事例を紹介し、文化・風習・習慣などの伝承・継承とその重要性について述べました。また、儀礼や行事、石碑などに記載されている言葉などを生活の中に組み込むことによって防災計画に活用できること、伝承行事と避難訓練を合わせて行うなどして歴史的記録と防災を結びつけることができることなどについて、説明しました。次に、井内准教授による「東日本大震災からの復興」と題した講義が行われ、東日本大震災の概要、被害状況と被災地では今何が起きているのか、復興の状況や行政体制、復興住宅の建設や家屋の再建とそれに伴う移転や移住のシステムと問題点、今後の課題、これからの復興計画などについて述べました。復興には様々な知識と技術が必要であること、また過去の災害からの教訓や他者からのアドバイスを受け入れる柔軟性が、地方自治体だけではなくあらゆる関係者に必要であると述べました。参加者は大変熱心に聞き入り、また活発な質疑応答がありました。

最後に、3D 映画「大津波3. 11 未来への記憶」（英語・80分版）を上映しました。



奥村誠 副所長



川島秀一 教授



井内加奈子 准教授



研修参加者